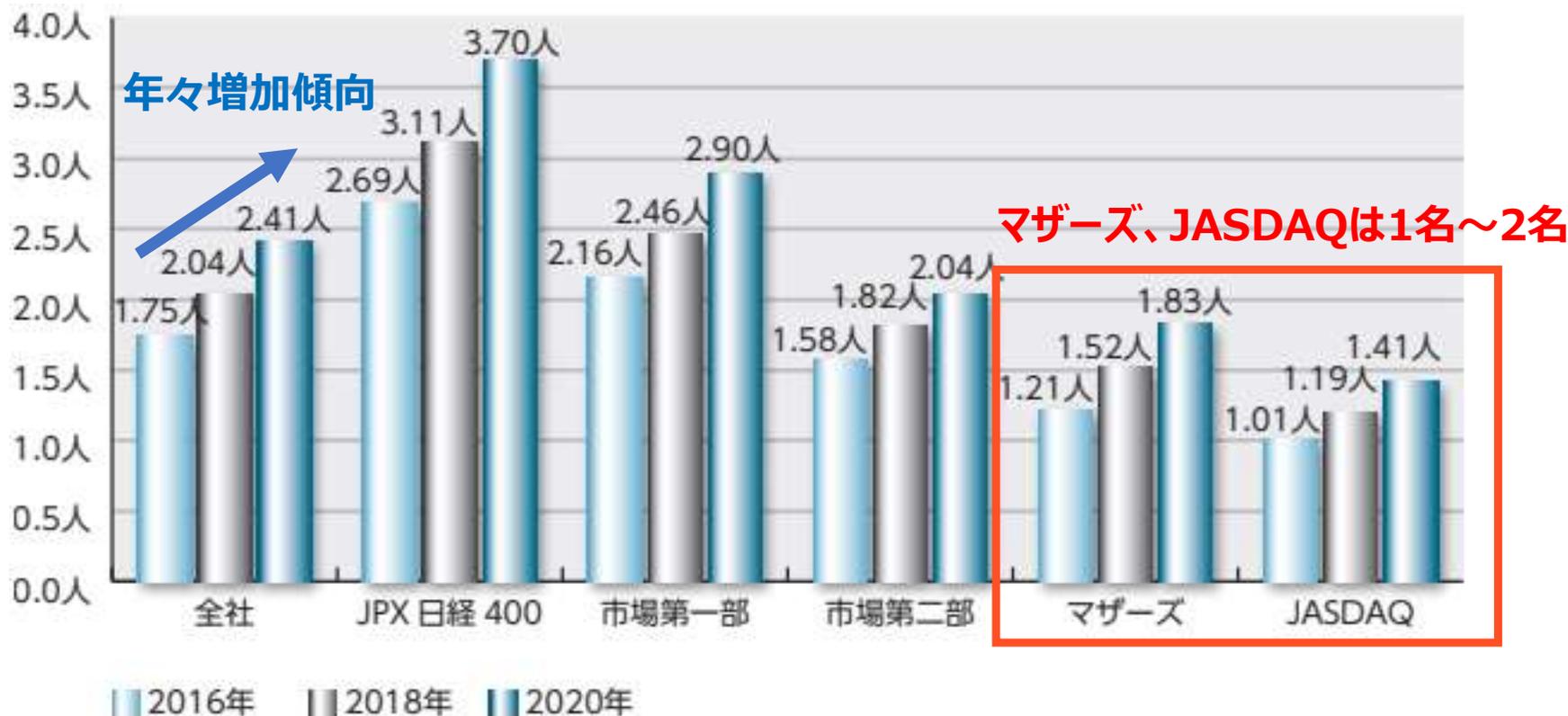


図表 84 独立社外取締役の平均人数（市場区分別）



【IPOの目線】

- IPOのN-2期くらいからは、**独立社外取締役が1名**いることが審査をスムーズに進めるために好ましいです。
(「独立社外取締役がない」という課題が引受・審査プロセスで常に言われ続けることとなります)
- 上場申請期（N期）においては2名を充足していることで会社としてのガバナンス、株式市場からの評価も高くなりやすいです。
(特に、**機関投資家が投資してくる時価総額100億円規模**になると独立社外取締役2名が強く要求されます)

【IRの目線】

- 東証再編による**プライム市場**においては、独立社外取締役が取締役会の**1/3**であることが推奨されています。
- 年々平均の独立社外取締役の人数が増えていて、株式市場からの要求と、それに対応している会社の姿勢が見えています。
- 独立社外取締役は人数を充足すれば良いという訳ではなく、**適任者を見つけることが大切**ですので、人選をしっかりと検討していきましょう。(将来のスキルマトリックス開示も意識)
- **任意設置でも良いので指名報酬委員会を組織し、その委員会で選定**することをオススメします。

